



筑波大学は世界で活躍する 研究者の育成を目指す

「先導的研究者体験プログラム」(ARE)は、全学群・学類の1年生から3年生を対象に、理系、文系を問わず、学生諸君の自発的な研究活動を支援するプログラムです。このプログラムは、学生の研究意欲や研究能力を伸ばすと同時に、自発的に学ぶ力をつけ、創造的で稀有な人材を育成することを目的としています。

筑波大学は、40年前の開学時から、それまでの大学が、教養課程(1、2年次)と専門課程(3、4年次)に分かれていたことに対し、1年次から4年次まで、専門科目を一貫して学ぶ、くさび形のカリキュラムを採用しました。今日では、日本のほとんどの大学が、このくさび形カリキュラムを採用しており、その意味では、筑波大学は、新しい大学教育を先導する立場にあるといえます。

さて、高校でも、最近は課題研究などが盛んに行なわれ、優れた研究成果をあげていますが、高校時代は、特に課題研究などの経験がなかった人でも、「筑波大学では自分で何らかの課題を決めて調べてみよう」と考えている人も少なくないと思います。その一方で、1年次の授業では、通常は、基礎的な科目など、本来、学びたかったこと、研究したかったこととは直接結びつかない科目も少なくなく、若干、戸惑いを感じる場合もあるでしょう。しかし、このAREは、自分の興味のある研究課題を、財政的支援を受けながら、すぐに始めることができるプログラムです。あなた自身の関心のあるテーマについて「研究計画書」を作成し、AREに提出してください。あなたの課題が採択されれば、あなたは、速やかに自分の研究課題に取り組むことができ、研究者の卵として、研究人生をスタートさせることができます。そして、自分の研究結果についてプレゼンテーションをするときは、あなたはすでに新人研究者として、研究キャリアをスタートさせているのです。

研究課題については、あまり難しく考える必要はありません。これまでの世紀の大発見といわれる研究も、初めはちょっとした思いつきやきっかけから始まることも少なくありませんでした。皆さんの研究課題が、将来、大きな研究成果へ通する可能性も十分あるのです。その一方で、研究者としての道のりは、決して平たんではなく、克服しなくてはならない問題に突き当たることも何度となくあるでしょう。そのような場合、一見、全く関係のないと思われる分野や領域の人と接したり、さまざまな意見やアドバイスを受けることにより、研究上の問題解決のヒントを得られる場合も少なくありません。

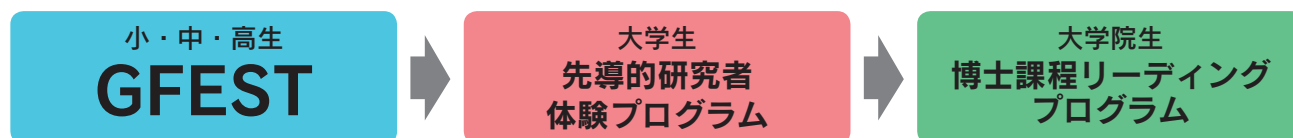
筑波大学は、他の大学に比べて学群間の壁が低く、異なる分野の授業を受講し、幅広い知識を獲得することが可能な教育システムを採用しています。本学のこのような利点を、皆さんの研究に大いに役立ててほしいと思います。AREでも、異分野の学生との合同研究発表会や「交流セミナー」を開催して、みなさんの研究上そして学問上の視野が、さらに広がるよう応援しています。また、AREは、学群での基礎的な課題研究を、将来、大学院での本格的な研究活動に発展させることも奨励しています。理系、文系を問わず、研究に関心をもつ多くの学生の参加を期待しています。



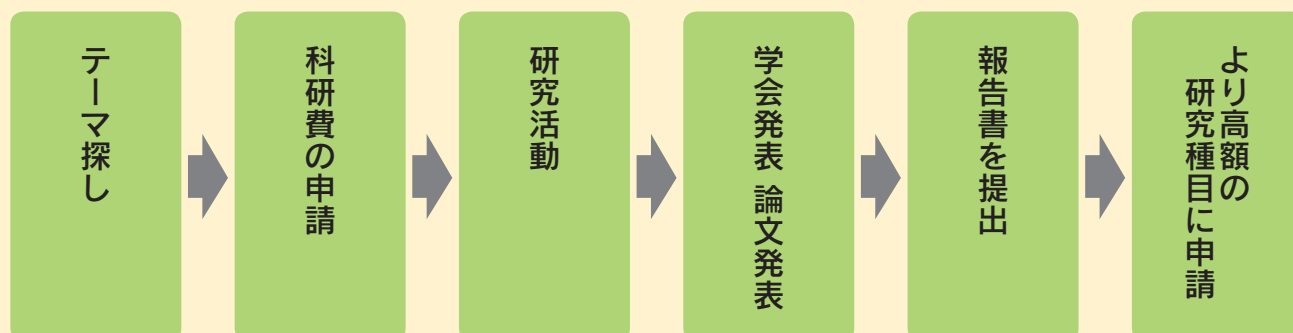
筑波大学副学長
伊藤 眞

先導的研究者体験 プログラムの支援

- 自主的研究の支援
- 早期研究室配属
- 学会発表の支援
- 論文投稿の支援
- 交流セミナーの実施
- 授業「研究者入門」



研究者生活 (科研費の場合)



研究者に必要な3つの能力を鍛える

探究力

研究活動を行いたい全学群の1～3年生（編入生も可）に対して、研究者が科学研究費補助金（科研費）と同じように、研究のレベルに応じて研究費の額に区分を設け、学生に研究計画書の申請をしてもらいます。審査を受けて採択され、アドバイザー教員の認可が得られれば、学生を早期に研究室配属させ、4年生や大学院生のような研究活動ができる体制になっています。このプログラムでは、研究者生活を体験させるだけでなく、自分自身でつけた研究課題を試行錯誤しながら研究を遂行し、物事を探求する力を習得してもらいます。それに加えて、研究業績・研究成果に応じて、レベルの高い申請ができますので、自分自身のレベルアップにもつながられます。研究終了後は、研究成果報告書を提出してもらい、成果の審査を行います。

表現力

参加者全員が研究成果の報告を行う研究発表会を開催します。この研究発表会では、自ら発見したことや創造したことを人に伝えることの喜びと難しさを体得することで表現力を身につけてもらいます。全ての発表者が互いの研究内容を知ることができるよう、ポスターセッションを設けています。研究意欲の向上や異分野の方に研究内容を伝える力を伸ばすために、優れた発表をした学生には賞を授与します。研究発表会は学内外に公開し、どなたでも参加できます。毎回、外部評価委員の先生方に学生の研究発表を評価して頂いています。

コミュニケーション力

参加学生がより確固とした目標を持ち、研究者生活をより明確にイメージしてもらうために、研究者、企業家、個人事業主や大学院生などを招いて、研究体験談や研究の話を聞き、講演者と交流するセミナー（交流セミナー）を実施します。このセミナーで異分野の参加学生や教員と交流することで、分野外の人たちに自分の興味・関心を伝えることのできるコミュニケーション力を磨かせます。

研究者にとって重要な 研究者倫理や知的財産権について学ぶ

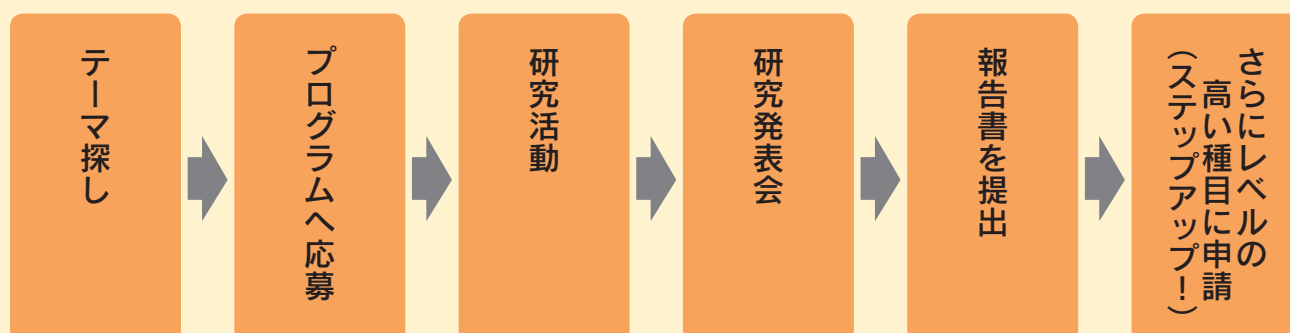
研究者倫理

研究活動に従事する上で踏まえるべき研究倫理の基礎を、具体的事例を交えて講義します。

知的財産権

研究者の基礎知識として特許に関する制度と仕組みを実例を紹介しながら理解させます。

先導的研究者体験プログラム



先導的研究者体験プログラム（ARE）で 研究者生活をリアルに体験！！

ー 平成27年度より先導的研究者体験プログラムが授業になります ー

『研究者入門Ⅱ（秋ABC集中）』のシラバスが先導的研究者体験プログラムに参加する学生を対象とした授業へと変わりました。AREに参加する学生は研究者入門Ⅱの単位を取得することができます。（但し、平成26年度までに『研究者入門Ⅱ』の単位を取得している学生は履修できませんが、プログラムに参加することは可能です。）

プログラムの流れ

研究交流室で説明を聞く



テーマを探す



アドバイザー教員を探す



WEBサイトに公募要領・応募書類が公開されたらダウンロード



応募書類を作成



募集期間内に応募書類をメールで提出



審査は2週間程度
審査結果はメールで通知します



研究テーマが採択！
(不採択の場合は次の募集で再チャレンジ！)



認定書授与式



研究スタート



研究者入門Ⅱの履修申請



研究発表会（1月中旬）



報告書の提出（2月上旬）



成績評価



次年度の募集で応募



応募をする前に研究交流室で説明を聞こう

研究交流室ではどのような準備から始めたら良いか、アドバイザー教員を探す方法等をアドバイスします。WEBサイトのお問い合わせフォームより相談予約をしてください。

平成27年度より授業の単位が取得できるようになる等、若干プログラムの内容が変わります。初めて参加をする学生だけでなく、参加経験のある学生も応募をする前に必ず説明を聞きましょう。

毎年、公募要領を公開後に説明会を開催しています！



AREに参加すると受けられる支援

プログラムに参加すると、研究活動、国内・国際学会等発表、論文投稿に係る経費を支援（補助）します。また、ノートPC等の貸出を行っています。貸出物品の詳細は研究交流室にお問い合わせください。

< 研究交流室の利用について >

AREの参加学生は研究交流室の共用の設備や物品を使用することができます。研究打合せをしたり、友人と一緒に輪読や発表練習をすることもできます。

誰かに研究の話をしたいと思ったら、研究交流室のスタッフに話しましょう！誰かに説明をすることで情報が整理され新たな発見があるかも！？

設備等の紹介

共用のデスクトップPC
(WINDOWS 2台、MAC 2台)、
複合機、ラミネーター、
スキャンスナップ、裁断機、
プロジェクター、文房具等



研究成果を発表しよう！

得られた成果をまとめ、発表する事は研究そのものと同じくらい研究者にとって重要な仕事です

研究成果を学会等で発表したり、論文にまとめて投稿しましょう。

多くの人に知ってもらうことで初めて、その研究成果が社会全体の財産となります。

また、研究成果の報告は次の研究費を獲得し、さらに研究を進めるためにも不可欠です。

他の研究者に興味を持ってもらうことで、新しい共同研究のスタートにつながることもあります。

研究成果発表実績

	H21	H22	H23	H24	H25
学術論文	0	0	1	0	0
国際学会	0	2	5	1	2
国内学会	5	11	8	7	5
その他	0	1	0	0	0

科学コンテストでの発表実績

サイエンス・インカレ	—	—	2	6	4
リサーチフェスタ	—	2	—	6	7

先輩の声をきいてみよう！

生命環境学群 生物学類4年 井村 英輔

転んでも、何度でも立ち上がればいい！

■先導的研究者体験プログラム（以下、ARE）の時に研究していたテーマについて教えてください。

私はショウジョウバエの遺伝子を研究していました。その遺伝子は新しく発見されたもので、ある特徴を持ちます。その特徴を持つ遺伝子は植物でよく研究されているのですが、動物ではほとんど研究されていません。そこで、私はその遺伝子について詳しく調査しようと思ったのです。

■3年生から研究体験をすることで、いろいろ苦労も多かったのでは？

いかに研究室になじむか、というのは課題でした。生物学類では4年生から研究室に所属するので、3年生から所属すること自体に抵抗を感じました。研究室の先輩たちに積極的に関わったり、無知ながらも粘り強く研究したりして、研究室に溶け込めるように努力しました。とはいえ、アドバイザー教員の先生も先輩方もたいへん優しく、周りに助けられた面のほうが大きいですけどね（笑）

■「無知」というキーワードもでていましたが、知識不足を感じる場面も多かった？

実際に研究体験をしてみると、嫌というほど痛感しますね…よく才能がないと研究なんてできないと考える人がいるみたいですが、私の場合才能ありませんでした（笑）才能がなくても、研究に対する熱意だけは常に持ち続けていましたね。また、分からないことは分からないとしっかり伝えること、また研究を怠けないでしっかり自分で調べることはとりわけ意識していました。AREに採択されているんだからしっかり研究しないと、という気持ちも研究を続ける上で大きな後押しとなりました。

■AREに採択されたことが、研究を続ける上でモチベーションの維持につながったんですね。

そうです。そもそも、高校の時から漠然と研究者になりたいと思っていたんですが、3年生になるまで漠然と大学生活を過ごしてしまったんです。けど、研究者を目指すからにはそれ相応の努力をしなくてはな

らない。あと、自分にはいわゆる才能もないから人一倍努力しなくてはならない。こういう考えもあって、AREで研究者体験をしたりすることが研究者を目指す第一歩となったわけです。

■研究でいきづまった時にリフレッシュする方法は？

ひたすら走る。私の人生において、走ることは心のよりどころなのです。どんなに辛い時も、走りと一緒にその状況を乗り越えてきました。研究にいきづまった時も一緒に、心の支えとなっている走りをして再び研究に打ち込むと、自然と問題が解決していることが多かったです。

■最後に、このパンフレットをみている後輩たちへ一言。

研究ときくと、頭がよくて才能がある人だけがやっているイメージがありますが、そんなことはないと思います。私みたいなヘラヘラしているやつでも、なんとか研究つづけてますし（笑）ぜひみなさんは固定概念にとらわれず、AREに応募してみてください。AREには色々な人がいます。文系、理系、研究一筋の人、研究だけでなくサークルやバイトにも打ち込む人…AREを通して、同じ境遇にいる同世代の仲間と共に悩み、語らい、考えることで、何か変わる気がします。



第4回サイエンス・インカレでの発表のようす

何かを始めるのに「早すぎる」ことはない!!

■先導的研究者体験プログラム（以下、ARE）の時に研究していたテーマについて教えてください。

よく京都の日本庭園などでみられる水琴窟^{すいきんくつ}について研究していました。水琴窟とは、地中に埋まっている大きな甕^{かめ}に水滴を落下させて、共鳴した音をきいて楽しむ道具です。私は将来的に楽器の研究がしたかったのですが、水琴窟の研究はその研究の基礎になる、とアドバイザー教員に助言され、水琴窟の研究に取り組みました。

■そもそも、なぜ音響工学という分野に興味をもったのですか？

漠然と自分で演奏するだけでなく、演奏する人をサポートするような人になりたいって思ったことですね。2歳からピアノ、中高時代はサックスをやっていて、音楽自体はすごく好きでした。研究室に所属したのは学群の3年生でしたが、1年生の夏休みには個人的に研究室へ遊びにいて、研究をのぞかせてもらいましたね。

でも、大学1・2年生の時はサークルや委員会活動もやりたかったので、研究はあまりしていませんでした。

■サークルは音楽系ですよ…

まったく関係ないです！ラグビー同好会のマネージャーとスポーツデーの委員をやっていました。音楽は個人的にほそぼそと続けています。

■研究者体験をしてみようと思ったきっかけは？

座学が苦手という自分自身の性格が大きいでしょうね。学群の1・2年生って基礎的な理論を授業で学ぶから私が本当にやりたい専門的な研究ができなかったんです。たしかに理論は大切ですが、授業を受けているうちに、実際に手を動かして研究したくなっちゃって。ふと思い立って1年生のときに遊びにいった研究室へ飛び込んだら、アドバイザー教員がAREのことを紹介してくれました。

■研究者体験をしてみてよかったことは？

研究体験をすることによって、研究の楽しさ・難しさを先に知ることができたのは大きなアドバンテージ

でした。4年生になって急に研究しろといわれても、どうすればいいのかわからないですから（笑）

あと、実際に手を動かしてすることで、身をもって理論を理解できたのは楽しかったです！授業で学んだ時にはもやもやしていたものが、実験で応用してみるとすっきり理解できました。理論を現象で理解できるのは、研究者体験の強みですね。

■研究をする上で気をつかっていたことはありますか？

睡眠をきちんととることと、食事に気をつけることかな。研究と私生活とのメリハリをきちんとつけて生活することが大切だと思います。研究も健康じゃないと続けられないですからね。

さらに言えば、長期の計画を練ることも大切でしょうか。AREに応募する際に提出する研究計画書はもちろんのこと、授業の履修計画とか…3年生のときにAREでがつつり研究したかったら、1・2年生の時のとるべき単位はきちんととっておかなくてはダメですよ（笑）

■最後に、このパンフレットをみている後輩たちへ一言。

研究をはじめると早すぎる、ということはないと思います。周りから「学群の3年生から研究なんて、ちょっと早すぎない？」と言われることもあると思いますが、気にする必要はありません！早ければいいというわけでもないけれど、早すぎて損をすることもないんじゃないかな（笑）研究をはじめたいと思ったとき、もしすぐにでもはじめられる環境があるんだったら、すぐにでもはじめるべきだと思います。



超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムにて
超音波シンポジウム論文賞を受賞したときのようす

サイエンス・インカレに挑戦しよう!

「サイエンス・インカレ」とは学生の能力・研究意欲を高め、創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的に、自然科学分野を学ぶ全国の大学生・高等専門学校生が自主研究の成果を発表し競い合う場として、平成23年度より文部科学省が開催している自主的研究の祭典（科学コンテスト）です。

アカデミックな方面で飛びぬけている人・着眼点が鋭い人・研究の進め方がうまい人・ユニークな研究をしている人など、「DERUKUI」な学群生を応援するものです。



文部科学大臣表彰受賞者から挑戦する「あなた」へ

返町 洋祐さん



第3回サイエンス・インカレにて

研究活動では、得られた成果を発表して多くの人から意見をもらい、研究に磨きをかけていくことが大切です。一般的には学会にて発表するわけですが、学群生の皆さんが自ら行った研究の発表の場としては、文部科学省主催の“サイエンス・インカレ”がおすすです。このサイエンス・インカレでは、分野を問わず全国から多くの学生たちが集まって発表を行い、それを様々な分野の審査員が評価します。もちろん発表内容の分野に精通した審査員からの専門的な指摘もあれば、他分野からの予想外のコメントを貰うこともあります。また、協賛企業が授与する企業賞というものもあり、第4回大会では本学の学生も受賞しました。各企業が業種や社是を反映した独自の視点で評価しますので、受賞者におかれては自身の研究テーマの意義をよりよく実感できたことと思います。こういったコメントや評価は、ここでしか得られない貴重なものであり、のちの研究活動や学生生活にとって有意義なものとなります。そして何より、同年代の、研究に熱意ある学生たちと出会えることが、将来にわたって皆さんの大きな財産になるでしょう。筑波大学から、より多くの学生が会場へ、活躍していくことを期待しています。

第4回サイエンス・インカレで発表してみよう

生命環境学群生物資源学類 3年

武井 瞳さん



第4回サイエンス・インカレ表彰式にて

「この2日間の思い出は、どんな消しゴムでも消えない。」

これは、消しゴムでの物の消え方について真剣に研究して、ポスター発表部門1位を受賞した発表者が、表彰式でいった言葉です。

サイエンス・インカレは、書類選考を通過した172組の学部学生が全国から一堂に会し、日頃の研究成果を発表する場です。私も、今までに味わったことのない緊張感の中で口頭発表を行いました。自分の発表の出来栄は後悔の残るものでした。しかし何より、同世代で研究をしているいろんな人と交流をすることができたのが、大会参加のいちばんの成果でした。よく消える消しゴムの研究をしている人、ゆらぎの定理について検証している人、水面を走るバジリスクの足の表面を金属で再現しようとしている人…いろんな学生が集まっていました。そして、そんな研究を志す仲間達という、何とも言えない心地よさがありました。

2日目に行われた表彰式では、35組が表彰されました。会場で知り合った友人や、前日の夜と一緒に飲みに行った仲間が受賞して舞台に立つと、思わず嬉しさがこみあげてきました。「あ！昨日終電逃した〇〇くん！」とか（笑）私もサイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞の「グッドパフォーマンス賞（相手に伝える手法に長けている、聞き手の印象に残るなどの、伝え方の上手さを評価するもの）」を唐突にもらい、驚きました。

出場前は不安ばかりだったのですが、参加してみると貴重な経験と楽しい思い出でいっぱいでした。サイエンス・インカレ前日には、AREからの出場者3人が自然と研究交流室に集まり、お互いのプレゼン発表や質疑応答の練習をしていました。第3回のインカレで文部科学大臣表彰を受賞した返町さんからアドバイスを受けることができ、あっという間に5時間が経過していました。また、インカレが終わってからも、会場で出会った発表者や見学者と他愛のない連絡を取り合う仲間となり、友達の輪が広がる貴重な機会でした。

研究に興味がある学生にとって、こんなにも面白く楽しく貴重な2日間はそうそうあるものでもないで、気軽に参加してみることをおすすめします。

サイエンス・インカレ 発表者一覧

●第1回サイエンス・インカレ（日本科学未来館、東京国際交流館プラザ平成、平成24年2月18日～19日）

【口頭発表部門 5件】

○数物・化学系（卒業研究に関連する研究）

- ・理工学群物理学類4年 桐原崇亘 「銀河衝突シミュレーションを用いた銀河の内部構造の探求」

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物資源学類2年 返町洋祐 「黒鉛粉末－菌体間の相互作用による微生物燃料電池の高出力化」
- ・生命環境学群生物学類3年 藏満司夢 「大きく巻けるが勝ち？卵をめぐるオトシブミ亜科昆虫とその寄生蜂類の生存戦略」

○生物系（卒業研究に関連する研究）

- ・生命環境学群生物学類4年 沼尻侑子 「Wolbachia感染系における細胞質不和合の多様性」

○情報・融合領域系（卒業研究に関連しない研究）

- ・近畿大学理工学部 中嶋研人、理工学群工学システム学類2年 西田惇（ARE）
「リアルタイム共有システム構築のためのプラットフォームの開発とその応用」

【ポスター発表部門 1件】

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物学類4年 伊藤史紘
「光合成電子伝達系の制御から探る*Synechocystis* sp. PCC 6803 のグルコース耐性・感受性メカニズム」

●第2回サイエンス・インカレ（幕張メッセ国際会議場、平成25年3月2日～3日）

【口頭発表部門 3件】

○工学系（卒業研究に関連する研究）

- ・理工学群応用理工学類4年 榎本詢子 「癌転移抑制剤開発のためのマイクロデバイス」

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物資源学類3年 返町洋祐 「糸状菌における二次代謝の電気化学的制御と作用機構の解明」

○生物系（卒業研究に関連する研究）

- ・生命環境学群地球学類4年 菊池輝海 「三宅島噴火後の植生回復における地形の影響」

【ポスター発表部門 1件】

○生物系（卒業研究に関連する研究）

- ・生命環境学群生物学類4年 恩田美紀 「線虫発育に関わるクロマチン構造制御因子の機能解析」

●第3回サイエンス・インカレ（幕張メッセ国際会議場、平成26年3月1日～2日）

【口頭発表部門 2件】

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物資源学類4年 返町洋祐 「脱窒活性の向上をもたらす微生物燃料電池のための修飾電極の開発」

○情報・融合領域系（卒業研究に関連する研究）

- ・理工学群工学システム学類4年 西田惇 「執刀医のための手術手技支援機器の開発」

【ポスター発表部門 2件】

○工学系（卒業研究に関連しない研究）

- ・理工学群工学システム学類4年 斎藤恵介、綿引壮真（ARE）、加藤由幹（ARE）
「アクリル／ガス酸素ハイブリッドロケットの開発および燃焼特性の解析」

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物学類3年 岡崎拓木 「沿岸域における植物プランクトン群集の動態とその支配要因」

●第4回サイエンス・インカレ（神戸国際会議場、平成27年2月28日～3月1日）

【口頭発表部門 3件】

○生物系（卒業研究に関連しない研究）

- ・生命環境学群生物資源学類3年 武井瞳 「効率的トマト生産に関わる新規単為結果遺伝子の特定」

○生物系（卒業研究に関連する研究）

- ・生命環境学群生物学類4年 井村英輔 「ショウジョウバエのステロイドホルモン生合成を調節する新規神経細胞の同定と機能解析」

○情報・融合領域系（卒業研究に関連しない研究）

- ・理工学群工学システム学類3年 河原圭佑 「聴覚障がい者のための装着型機器によるコミュニケーション支援の研究」

受賞・表彰

●第1回サイエンス・インカレ

○サイエンス・インカレ奨励表彰：返町洋祐、西田惇

○エア・リキード賞：返町洋祐 ○東芝賞：西田惇

●第2回サイエンス・インカレ

○サイエンス・インカレ奨励表彰：榎本詢子

●第3回サイエンス・インカレ

○文部科学大臣表彰：返町洋祐

○独立行政法人科学技術振興機構理事長賞：加藤由幹、綿引壮馬

●第4回サイエンス・インカレ

○サイエンス・インカレ・コンソーシアム奨励賞「グッドパフォーマンス賞」：武井瞳

○各協力企業・団体賞「畠山文化財団賞」：河原圭佑



H21～H26までの採択状況

●対 象

H21～H24 生命環境学群・理工学群・情報学群の1～3年生

H25～ 全学群1～3年生

種目別採択件数

種目	H21		H22		H23		H24		H25		H26	
	採択件数：22件		採択件数：28件		採択件数：25件		採択件数：39件		採択件数：30件		採択件数：45件	
	参加人数：24名		参加人数：23名		参加人数：25名		参加人数：44名		参加人数：32名		参加人数：48名	
	申請上限額	件数	申請上限額	件数	申請上限額	件数	申請上限額	件数	申請上限額	件数	申請上限額	件数
S	100万円	4	60万円	1	100万円	1	100万円	1	50万円	0	50万円	0
A	30万円	8	30万円	0	30万円	4	30万円	1	20万円	1	20万円	4
B	7万円	7	10万円	4	15万円	9	15万円	13	10万円	14	10万円	15
C	3万円	3	5万円	7	5万円	11	5万円	24	5万円	14	5万円	24
奨励	—	—	2万円	16	—	—	—	—	0円	1	0円	2

所属別参加学生数

所属	H21	H22	H23	H24	H25	H26
人文・文化学群	—	—	—	—	3	7
人文学類	—	—	—	—	3	4
比較文化学類	—	—	—	—	0	2
日本語・日本文化学類	—	—	—	—	0	1
社会・国際学群	—	—	—	—	0	1
社会学類	—	—	—	—	0	1
生命環境学群	9	15	14	21	16	20
生物学類	6	11	10	7	8	7
生物資源学類	3	4	3	13	4	12
地球学類	0	0	1	1	4	1
理工学群	10	5	10	20	8	19
数学類	0	0	1	0	0	1
物理学類	5	2	2	5	3	1
化学類	0	1	0	2	1	2
応用理工学類	1	0	4	6	3	6
工学システム学類	4	2	3	7	1	7
社会工学類	0	0	0	0	0	2
情報学群	5	3	1	3	5	1
情報科学類	2	1	0	1	4	1
情報メディア創成学類	3	1	1	2	1	0
知識情報・図書館学類	0	1	0	0	0	0

採択課題一覧

■平成21年度 22件

生命環境学群 11件	生物学類 9件	・新井佑子（1年）、細胞性粘菌の<i>Dictyostelium</i>属と<i>Polysphondylium</i>属の形態形成能の比較【C】 ・藏満司夢（1年）、アワヨトウを宿主とするギンケハラボソコマユバチとカリヤコマユバチの宿主内での異種間競争【B】 ・本多隆利（1年）、シヨウジョウバエを用いたヒト精神疾患の遺伝学的研究①【A】 ・本多隆利（1年）、シヨウジョウバエを用いたヒト精神疾患の遺伝学的研究②【S】 ・藤田麻里（3年）、ルリゴキブリ<i>Eucoydia yasumatsui</i>の発生学的研究【B】 ・伊藤史紘（2年）、光化学系Ⅱ複合体周辺機能未知小サブユニット群の機能解析と光合成能力向上技術の開発①【B】 ・下山せいら（3年）、プラナリアの摂食行動【A】 ・伊藤史紘（2年）、光化学系Ⅱ複合体周辺機能未知小サブユニット群の機能解析と光合成能力向上技術の開発②【A】 ・下山せいら（3年）、プラナリアの摂食機構【S】
	生物資源学類 2件	・藤森祥平（2年）、シバ（<i>Zoysia sp.</i>）の発芽・生長に対しネジバナ由来の菌（<i>Rhizoctonia sp.</i>）が与える影響【C】 ・上原拓也（3年）、カメムシの様々な生理状態における走光性【B】
理工学群 4件	物理学類 1件	・濱藤祐理子・青木すみれ（3年）、桐原崇亘（2年）、榊原敬治・笠嗣瑠（1年）、筑波大学30cm反射望遠鏡による銀河系内の星団観測【A】
	応用理工学類 （第三学群工学基礎学類） 1件	・佐藤英知（2年）、タンパク質やアミノ酸に与える大気圧プラズマの影響【B】
	工学システム学類 2件	・上村典道（3年）、歪みゲージによる歪みの検出、線形性、ノイズ除去の考察【B】 ・上村典道（3年）、電磁加速装置の研究【A】
情報学群 7件	情報科学類 4件	・伊藤剛浩（1年）、データ駆動型プロセッサにおける低消費電力動作性能の評価①【B】 ・伊藤剛浩（1年）、データ駆動型プロセッサにおける低消費電力動作性能の評価②【A】 ・金子紘也（3年）、FPGA評価ボードを用いたアナログ信号サンプリングに関する研究【C】 ・金子紘也（3年）、上村典道・丹羽直之（理工学群工学システム学類3年）、赤須雄太・大古嵩之（理工学群応用理工学類2年）、ロケットエンジンの推力測定システムの開発【A】
	情報メディア 創成学類 3件	・鎌谷崇広（3年）、ネットワーク技術による実世界の空間をつなぐ新たな社会的音楽インタラクション【A】 ・落合陽一（3年）、山口芽衣（生命環境学群生物資源学類3年）、小西響児（情報学群情報メディア創成学類3年）、節足動物にする神経伝達電位パターンの測定と行動予測によるモジュール制御、デジタルキマイラの制作①【S】 ・落合陽一（3年）、山口芽衣（生命環境学群生物資源学類3年）、小西響児（情報学群情報メディア創成学類3年）、節足動物に関する神経伝達電位パターンの測定と行動予測によるモジュール制御、デジタルキマイラの制作②【S】

■平成22年度 28件

生命環境学群 18件	生物学類 13件	・戸祭森彦（1年）、<i>Chelonius inanitus</i>の寄主発見行動の観察【C】 ・村山拓未（1年）、<i>Thermosiphon globiformans</i>の地球体形成のための培養方法の確立【奨励】 ・上原明菜（1年）、ラン藻の光合成電子伝達活性の測定を目指した遅延発光パターンの解析【奨励】 ・内海邑（2年）、完全変態類の各目間における蛹の比較解剖学的研究【奨励】 ・小長谷達郎（2年）、シロチョウ類の野外個体群における雄の日齢と交尾歴の推定【奨励】 ・新井佑子（2年）、細胞性粘菌の<i>Dictyostelium</i>属と<i>Polysphondylium</i>属の形態形成能の比較【B】 ・恩田美紀（2年）、線虫<i>Caenorhabditis elegans</i>をモデル系とした個体の成熟化に関わる遺伝子の機能解析【奨励】 ・曽根薫（2年）、バクテリア2-ハイブリッド法を用いたラン藻のシグナル検知伝達因子の相互作用の解析①【奨励】 ・曽根薫（2年）、バクテリア2-ハイブリッド法を用いたラン藻のシグナル検知伝達因子の相互作用の解析②【奨励】 ・須黒達巳（3年）、南西諸島における<i>Evarcha</i>属ハエトリグモの分類学的研究①【奨励】 ・須黒達巳（3年）、南西諸島における<i>Evarcha</i>属ハエトリグモの分類学的研究②【奨励】 ・伊藤史紘（3年）、光化学系Ⅱ複合体機能未知タンパク質の機能および相互作用解析【S】 ・沼尻侑子（3年）、カイコ突然変異体の筋収縮誘導メカニズム【B】
	生物資源学類 5件	・返町洋祐（1年）、微生物燃料電池における導電性粉体の利用①【C】 ・返町洋祐（1年）、微生物燃料電池における導電性粉体の利用②【C】 ・藤森祥平（3年）、ネジバナ由来の菌<i>Rhizoctonia sp.</i>が持つシバ<i>Zoysia japonica</i>の発芽促進因子の解明【C】 ・青木瑞代（3年）、養液土耕栽培によるブルーベリーの周年栽培化に適した品種の解明【奨励】 ・佐藤未来（3年）、ブルーベリーの周年栽培への挑戦と最適土壌の発見【奨励】

採択課題一覧

理 工 学 群 6件	物 理 学 類 2件	・桐原崇亘（3年）、数値シミュレーションによるアンドロメダ銀河における銀河衝突の解析【奨励】 ・笹部祐司（3年）、数値計算による銀河進化の探究解明【奨励】
	化 学 類 2件	・猪股 悟（2年）、シキミ酸の全合成へむけての段階的研究①【奨励】 ・猪股 悟（2年）、シキミ酸の全合成へむけての段階的研究②【C】
	工学システム学類 2件	・岡崎仁美（1年）、橋の構造力学の研究－組み立て橋作製へ向けて－【奨励】 ・西田惇（1年）、低価格筋電位アプリケーションに応用可能なインターフェースの開発【C】
情 報 学 群 4件	情 報 科 学 類 1件	・井上尚（3年）、現実空間上のデザインに於ける仮説・検証のサイクルの考察【B】
	情報メディア 創 成 学 類 2件	・浦野幸（2年）、コンポジション要因が人に与える印象の定量的評価【奨励】 ・浦野幸（2年）、西洋絵画における構図のクラスタリングに関する一考察【C】
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類 1件	・堀智彰（3年）、Web空間と現実空間とのインタラクション：レーザーと音声を用いたフィードバックに関する研究【B】

■平成23年度 25件

生 命 環 境 学 群 14件	生 物 学 類 10件	・小嶋一輝（1年）、アカマタの地理的変異の研究【A】 ・長澤亮（1年）、外来種アカボシゴマダラと寄生蜂に関する研究【B】 ・大沢和広（2年）、微生物由来微小管阻害剤Plinabulinの結合部位同定【C】 ・藏満司夢（3年）、オトシブミ亜科昆虫とその卵寄生蜂類の種間関係【B】 ・新井佑子（3年）、細胞性粘菌 <i>Acytostelium subglobosum</i> と <i>Variovorax sp</i> の相互作用について【B】 ・市川美沙紀（3年）、初期の攪乱程度が植生に及ぼす影響【C】 ・島田悟（3年）、Terpendole Eによる分裂期キネシンKSP特異的阻害機構の解析【C】 ・本多隆利（3年）、ショウジョウバエを用いたヒト精神疾患の遺伝学的研究（3）【B】 ・小長谷達郎（3年）、キタキチョウの雄の季節的二型とその繁殖戦略に関する研究【B】 ・新妻耕太（3年）、免疫受容体に対する特異的モノクローナル抗体の作製【C】
	生物資源学類 3件	・返町洋祐（2年）、微生物燃料電池における特異的な物質動態の解析と応用【A】 ・徐昊珺（G30 2年）、生体外および生体内におけるトウトウ草の抽出物の抗糖尿病効果の解明【A】 ・陸偉哲（G30 2年）、難分解性有機性廃棄物の光触媒処理による高効率バイオエネルギーの生産に関する研究【B】
	地 球 学 類 1件	・菊池輝海（3年）、三宅島における溶岩流上の微地形と先駆種の実生定着について【C】
理 工 学 群 10件	数 学 類 1件	・池淵未来（1年）、整数論【C】
	物 理 学 類 2件	・山本敬太（1年）、2次元、3次元の量子カオス系の測定【C】 ・寺門明紘（2年）、量子ビームを用いた、原子核構造からみる宇宙元素合成の研究【C】
	応 用 理 工 学 類 4件	・細井舜（1年）、走査型トンネル顕微鏡内の回路の製作【B】 ・柳弘太（2年）、走査型トンネル顕微鏡の制作とその性能評価【B】 ・吉澤俊祐（2年）、インターカレートグラフィットの作製とインターカレートの度合の制御に関する研究【B】 ・榎本詢子（3年）、細胞遊走試験のための微細加工チップデバイス【A】
	工学システム学類 3件	・西田惇（2年）、リアルタイム・ベクタグラフィックス共同編集ソフトウェアの制作と配布【C】 ・角間孝一（3年）、圧電トランスデューサから固体に入射される弾性波の波動伝搬の解析【C】 ・藤井郁香（3年）、円筒形水琴窟の高さと底面直径の比率変化に対する水琴音の音響的特性に関する研究【C】
情 報 学 群 1件	情報メディア 創 成 学 類 1件	・浦野幸（3年）、クッション材による梱包デバイスの開発【S】

■平成24年度 39件

生命環境学群 21件	生物学類 7件	・丹野晶博（1年）、クリプト藻のセレン要求性の解明【B】 ・高橋玄（2年）、アメンボ・ヒメアメンボの個体群組成【C】 ・戸嶋知春（2年）、幼少期の匂い体験が成長後に与える心理効果【C】 ・岡崎拓未（2年）、静岡県下田沖における植物プランクトン群集組成の動態【C】 ・大沢和広（3年）、微生物由来微小管阻害剤Plinabulinの結合部位同定【B】 ・遠藤智之（3年）、ユビキチンリガーゼCul3-KLHL7複合体がユビキチン化する基質の探索【C】 ・戸祭森彦（3年）、<i>Chelonus inanitus</i>の産卵時におけるマーキング行動解析【B】
	生物資源学類 13件	・武井瞳（1年）、イネ品種NERICAの耐乾性および耐塩性に関する研究【B】 ・郡司理紗子（1年）、環境中からの新奇微生物の取得と微生物燃料電池への適用【C】 ・小柳津延予（1年）、保存環境の制御に基づく果実の高品位貯蔵法の開発と評価【C】 ・谷口末峰（1年）、果実の高品位貯蔵法の導入による経済効果の推測【C】 ・守屋恵美（1年）、ヌートリアの四肢長骨における骨端閉鎖順序について【C】 ・高橋昌宏（1年）、高等植物における環境ストレス耐性の強化【B】 ・李其育（G30 2年）、Sulf 1/ Sulf 2遺伝子ダブルノックアウトの皮質脊髄路発生に対する影響の生後マウスにおける解析【C】 ・陳碩也（G30 2年）、二胡共鳴胴材料の振動特性の解明および持続可能な代替材料の開発【C】 ・徐照（G30 2年）、線虫を用いた老化に伴う代謝産物の定量解析【C】 ・徐昊珺（G30 3年）、妊娠高血圧マウスのカルシウム拮抗剤による病態改善効果の検討【A】 ・返町洋祐（3年）、微生物燃料電池に基づく微生物電気化学系の広汎応用技術の開発【S】 ・坂東侑哉（3年）、マメ科植物ムクナ由来の神経保護様作用物質の探索【C】 ・三浦一輝（3年）、埼玉県の農業用水路におけるイシガイ科二枚貝の寄生宿主と分布規定要因【B】
	地球学類 1件	・三輪圭吾（1年）、LASの自浄作用における分解【B】
理工学群 15件	物理学類 5件	・飯田美幸（1年）、可視光でみた双極子状態星状星雲の起源【B】 ・藤本和馬（1年）、一般的な体の上に定義された微積分の性質と物理学への応用の研究【C】 ・山本敬太（2年）、量子ドットを介しての量子輸送と量子エンタングルメント【C】 ・寺門明紘（3年）、量子ビームを用いた、原子核構造から見る宇宙元素合成の研究【C】 ・結城文香（3年）、ダークマターハローの質量分布に関する研究【C】
	化学類 2件	・薄葉純一（1年）、1, 3, 5, 7-テトラアザフパンの全合成【B】 ・大久保純夏（2年）、BZ反応における振動の復活とそのメカニズムの解明【B】
	応用理工学類 3件	・細井舜・愛敬雄介・山本淳司・北山雄介（2年）、走査型トンネル顕微鏡内の回路の製作【B】 ・栗飯原有輝（2年）、プレーナー型の微細化MOS型シリコントランジスタ中の結晶欠陥の評価【C】 ・小田弦之介（3年）、CUDAによるプラズマ2流体不安定性シミュレーションおよび可視化【C】
	工学システム学類 5件	・杉浦光（1年）、鋤先星汰（2年）、進林昂太（1年）、睡眠中の外的刺激によるREM/nREM睡眠周期の変化の観測【B】 ・加藤由幹（3年）、エマルジョン燃料で動作するジェットエンジンの製作【B】 ・中澤有理（3年）、電気インピーダンス法を用いる頭髮の含水率測定に関する研究【C】 ・坂井琢人（3年）、仮想逆音源法を用いる低レベル音源探査に関する研究【C】 ・綿引壮真（3年）、パラフォイルを用いた自律誘導制御に関する研究【C】
情報学群 3件	情報科学類 1件	・坂口和彦（2年）、計算の状態を見ながらプログラミングできるプログラム導出システム【C】
	情報メディア 創成学類 2件	・村松陽太郎（1年）、集中制御ディスプレイにおけるわかりやすい制御装置配列とは何か【C】 ・尾崎嘉彦（2年）、群知能を用いた空間文書管理アルゴリズムの開発【C】

採択課題一覧

■平成25年度 30件

人 文 学 群 3件	人 文 学 類 3件	・川邊貴英（3年）、日本語文黙読時における音韻変換の有無と事象関連電位の相関性について【B】 ・桜木真理子（3年）、ハンセン病療養所入所者の生活史と「語り」：栗生楽泉園の事例から【C】 ・辻本侑生（3年）、津波常習地における集落移動と地域変化に関する歴史地理学的研究【B】
生命環境学群 15件	生 物 学 類 8件	・井戸川直人（1年）、トゲアリ、<i>Polyrhachis lamellidens</i>、の生息数減少を引き起こす要因の解明【B】 ・矢野更紗（1年）、リターの分解段階及び植物相とササラダニ群集の相互関係の解明【B】 ・丹野晶博（2年）、クリプト藻類におけるセレン有無での代謝の変化【B】 ・MAEZONO SAKURA ERI BAUTISTA（G30 2年）、ヒトメラニン細胞における酸化ストレスを抑制するカフェ酸およびカフェ酸誘導体の探索【C】 ・高橋玄（3年）、ナミアメンボの性成熟【B】 ・森田陸離（3年）、異種の分裂酵母を利用した細胞質分裂の分子基盤の多様化の理解を目指した研究【C】 ・井村英輔（3年）、キロショウジョウバエのPPR ドメイン遺伝子の生体内機能の解明【C】 ・岡崎拓未（3年）、静岡県下田沖における植物プランクトン群集組成の動態【C】
	生物資源学類 4件	・守屋恵美（2年）、ヌートリアの四肢長骨における骨端閉鎖順序について【B】 ・阿部友亮（2年）、低圧環境における樹木発根実験の計画－マメザクラ（<i>Prunus incisa</i>）の挿し木を用いた検討【C】 ・徐照（G30 3年）、線虫におけるメチオニン回路代謝産物の定量とヒストンメチル化の解析【B】 ・李其育（G30 3年）、光および熱遺伝学によるショウジョウバエ幼虫における嗅覚連合記憶の解析【B】
	地 球 学 類 3件	・木下貴裕・田中基成（1年）、遠洋性粘土岩に地震性すべりの痕跡を探る【B】 ・小川万尋（1年）、RFIDタグを用いた砂粒子の移動プロセス【C】 ・川添航（1年）、首都圏新都市鉄道開業に伴う筑波山観光地の景観・経済的な変化【C】
理 工 学 群 8件	物 理 学 類 3件	・出口裕佳（1年）、粒子線治療における体内元素の放射化とその影響に関する研究【B】 ・吉田英隆（1年）、陽子線治療の治療計画に特化されたユーザーインターフェイスの研究【C】 ・武田潤（1年）、BNCTの即発γ線検出器における位置検出非線形性の補正マップ作製と検証【C】
	化 学 類 1件	・薄葉純一（2年）、1, 3, 5, 7-テトラアザクバンの全合成【B】
	応用理工学類 3件	・PARK JIN SU（1年）、発展途上国のための自然エネルギーのみで作動する淡水化装置の開発【奨励】 ・山田慶春（2年）、非線形分光イメージングを用いた生細胞内における活性酸素の可視化【B】 ・栗飯原有輝（3年）、プレーナー型の微細化MOS型シリコントランジスタ中の結晶欠陥の評価【B】
	工学システム学類 1件	・河原圭佑（2年）、力覚提示を用いた視覚障害者補助デバイスの開発【C】
情 報 学 群 4件	情 報 科 学 類 3件	・桐井祐樹・田野井優斗（2年）、P2Pネットワークを用いた分散ストレージの開発【C】 ・坂口和彦（3年）、System F の形式化とその強正規化定理の構成的証明【A】 ・薄井千春（3年）、形式化された量子計算とそれによる物理系の表現【C】
	情報メディア 創 成 学 類 1件	・青木海（2年）、単純モデルによるリアルタイム音楽的コミュニケーションメカニズムの調査【C】

■平成26年度 45件

人 文 ・ 文 化 学 群 6件	人 文 学 類 4件	・ 小木曾智子（2年）、テキスト構造の違いが日本人英語学習者の理解に及ぼす影響の解明【C】 ・ 鈴木偲歩（2年）、日本人英語学習者のテキスト理解における再話とイメージ提示の併用効果【C】 ・ 大河原にし香（3年）、コア・イメージを利用した語彙学習がもたらす効果の解明【C】 ・ 齋藤匠偉（3年）、日本語の用言における評価表現の記述【C】
	比較文化学類 1件	・ 砂田恭佑・大木啓太（2年）、茨城県つくば市およびその周辺のペット墓地から見る日本人の「ペット」観【C】
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類 1件	・ 横内碧（3年）、安部公房『壁』における支配者と被支配者の関係ーシュルレアリスム及びマルクス主義における「支配者を支配する存在」へのアプローチからー【C】
社会・国語学群 1件	社 会 学 類 1件	・ 佐藤知菜（3年）、摂食障害から見る健康と幸福【C】
生 命 環 境 学 群 18件	生 物 学 類 7件	・ 井戸川直人（2年）、アゲハチョウ類の雌体内における精子の移動【A】 ・ 矢野更紗（2年）、冷温帯アカマツ林における有機物の分解がササラダニ群集に及ぼす影響【B】 ・ 岡島智美（3年）、ミクロブリア細胞株BV2の増殖・形態を制御する新規物質の探究【B】 ・ 菅原賢也（3年）、ピフィス菌投与による線虫（ <i>C.elegans</i> ）の寿命延伸作用と作用機序の解明【B】 ・ 相天琳（3年）、ヒトがん細胞株における可溶性CD155の発現解析【C】 ・ 丹野晶博（3年）、相同組み換えによる <i>Ostreococcus sp.</i> (NIES-2674) に必須なセレノプロテインの同定【B】 ・ 船本大智（3年）、ツリガネニンジン属の花生態学【B】
	生物資源学類 10件	・ 伊藤汰一（1年）、重金属環境下における超集積性植物の内生微生物の機能解明【C】 ・ 大谷祐矢（1年）、トマトの果実形成に必要なめしべ細胞の特定【C】 ・ 和田光代（1年）、中国内蒙古における砂漠化防止・回復のための土一草一家畜物資源循環修復モデルの確立【C】 ・ 坂入愛（2年）、自生するツツジ科植物に共生する菌根菌 <i>Rhizoscyphus ericae</i> の林内分布とその分散方法の解明【C】 ・ 田村陽・佐藤実希・濱野直樹（2年）、複数プロモーターをもつ遺伝子発現スイッチの開発【B】 ・ 阿部友亮（3年）、閉鎖生態系導入に最適な生物活性を指標としたマメザクラ（ <i>Prunus incisa</i> ）株の探索【A】 ・ 武井瞳（3年）、情報学と遺伝学の利用による、トマトの着果を促進する新規遺伝子の同定【B】 ・ Zhang Shike（3年）、マウスアダルト腎臓細胞を初期未分化に誘導する外的刺激条件の樹立【C】 ・ 平田優介（3年）、寿命調節転写因子DAF-16の熱ストレス応答機構の解明【C】 ・ 守屋恵美（3年）、イモリ肢再生におけるnAG-Prod 1システムの機能解析【A】
	地 球 学 類 1件	・ 石井彰吾（2年）、石器材料に適した放散虫岩とその地球科学的意義【C】
理 工 学 群 19件	数 学 類 1件	・ 山口流聖（1年）、 <i>Schur</i> 多項式を通じた線形回帰数列の表現論的考察【C】
	物 理 学 類 1件	・ 武田潤（2年）、BNCTの即発γ線検出器における位置検出非線形性の補正マップ作製と検証【奨励】
	化 学 類 2件	・ 永井瑛（2年）、クローンカを用いた立体選択性の制御【C】 ・ 薄葉純一（3年）、1, 3, 5, 7-テトラアザパンの全合成【B】
	応用理工学類 6件	・ 大高生（1年）、液晶構造を用いたフォトニック材料の開発【C】 ・ 蛭田剛基（1年）、有機分子を用いた水素吸蔵材料表面への水素吸着の研究【C】 ・ 武藤敢太（1年）、直接電子移動型バイオ電池での電極と酵素間の結合の研究【C】 ・ 伏木蒼太郎（3年）、アスリートのコンディショニング用マイクロバイオセンサーの開発【C】 ・ 洪台勲（3年）、食品応用を目指した、アミノ酸の添加による卵白タンパク質の凝集形成制御【B】 ・ 山田慶春（3年）、二酸化チタンによるハイパーアマン散乱の増強効果の研究【B】
	工学システム学類 7件	・ 石根健史（1年）、視覚認識によるフィードバックの観察を行うための装置の開発【C】 ・ 井上直也（1年）、脳神経のシナプスにおける抗鬱薬レクサプロが作用する様子の分子レベルの動画の作成【奨励】 ・ 杉浦光（2年）、Face Tracking Projection Mapping【A】 ・ 高橋翔（2年）、金管楽器の吹鳴に関わるパラメータの可視化【C】 ・ 大塚皓太（3年）、ギター弦材料疲労が及ぼす楽器生成音劣化の工学的評価に関する研究【B】 ・ 岡村米里奈（3年）、電気インピーダンス法を用いる葉物野菜の鮮度測定に関する研究【B】 ・ 河原圭佑（3年）、聴覚障害者のための装着型機器によるコミュニケーション支援の研究【B】
	社会工学類 2件	・ 菅野倫匡（3年）、日本人の漢字使用率の変遷について～芥川賞受賞作品に関する調査研究～【C】 ・ 久保大輝（3年）、Webマイニング技術を用いた、裁判における事件の正式名称と世間で一般的となっている事件の名称の関連付けに関する研究【B】
情 報 学 群 1件	情 報 科 学 類 1件	・ 怒田晟也（2年）、柔軟で高速なオペレーティングシステム・カーネルの開発【B】

【事務局】

筑波大学 研究交流室

（第三エリア 3B棟2階 3B205室）

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL/FAX 029-853-8284

E-MAIL ARE@un.tsukuba.ac.jp



プログラムの参加を希望する学生は
事前にメールまたはWEBサイトのお
問い合わせフォームより相談を
希望する日時をお知らせください。



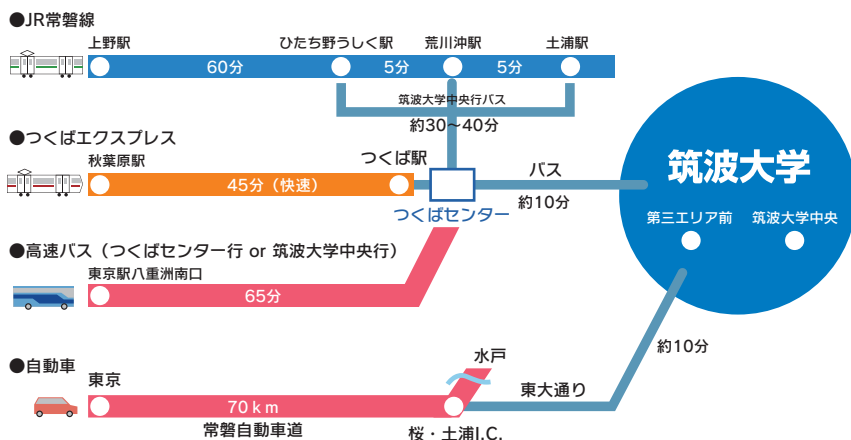
アクセス

- つくばエクスプレスにて秋葉原駅からつくば駅まで最速45分。

つくばセンターから「筑波大学中央行き」バス、または「筑波大学循環バス（右回り）」で「第三エリア前」まで約10分。左回りでも行けますがやや遠回りになります。

- JR常磐線にて上野駅、あるいは水戸駅からひたち野うしく駅、荒川沖駅、あるいは土浦駅まで約1時間。ひたち野うしく駅東口、荒川沖駅西口、あるいは土浦駅西口からそれぞれ「筑波大学中央行き」バスで「第三エリア前」まで約40分。なお直行バスがない場合は、「つくばセンター行き」バスで「つくばセンター」下車、「筑波大学循環バス（右回り）」で「第三エリア前」下車。

- 東京駅八重洲南口から「筑波大学行き」高速バス、「つくばセンター行き」高速バスにて「つくばセンター」下車（約65分）。つくばセンターから「筑波大学中央行き」バス、「筑波大学循環バス（右回り）」にて「第三エリア前」下車（約10分）。または、東京駅八重洲南口から「筑波大学行き」高速バスにて「大学会館」下車（約75分）。「第三エリア前」まで徒歩（約5分）。



ロゴの表示板が目印です。

職員が在室中はドアのカギが開いています。
ドアノブを回す方向に注意して開けてください。

